

巻頭インタビュー

結核・HIV…正しく恐れつつ、患者に寄り添う
～MIA保健・医療通訳サポーターの最前線を担うみなさんに聞く～

小関一絵さん(中国出身、写真右)

ドゥワディ・アルンさん(ネパール出身、写真中央)

ヴォン・ティードアン・トゥーさん(ベトナム出身、写真左)

東日本大震災以降、ネパール、ベトナムといったアジア諸国からの日本語学校留学生や技能実習生の増加に伴い、本県でも結核感染者は増加傾向にあります。昨年度の「MIA保健・医療通訳サポーター」派遣件数87件のうち、実に47件が結核関連でした。

先般、神奈川県を拠点とするNPO法人多言語社会リソースかながわ(MICかながわ)では厚生労働科学研究事業との連携で《外国人支援スタッフ・ボランティア通訳のための感染症(結核・HIV)通訳養成事業》を実施。同団体からの特別のご配慮で当協会からも中国語、ネパール語、ベトナム語の3名の通訳サポーターが参加させていただきました。参加された皆様に、東京での2回シリーズの研修を振り返っていただきます。

—まず初めに、みなさんが、MIA保健・医療通訳サポーターとして登録された動機をお聞かせください。

小関さん 実は、15年ほど前、仙台に転入してきたばかりの頃、一度MIAに問い合わせたことがあったのですが、「有償活動」と聞き、ボランティアで役立ちたいと燃えていた自分の志とのずれを感じて登録しませんでした。でも、その後、知り合いの中国出身者に誘われて登録。今では、継続して責任を果たすためには「有償」であるべきだと考えています。

アルンさん 私は、10年ほど前に娘の病気治療のため来日したのですが、その直後からMIAの日本語講座を受講し、まずは児童・生徒のための国際理解教育支援講師の登録から社会参画を始めました。ここ数年、急にネパール人が増加したことから、保健・医療通訳サポーターとしても登録することになりました。

トゥーさん 私はある日本語学校で通訳として働いていたのですが、その学校の職員の方からMIAについて紹介をされ、通訳サポーターの登録をしました。しばらくは派遣要請の機会もありませんでしたが、アルンさん同様、この数年の間に、ベトナム人が急増したことで、現在はとても忙しくなりました。

—みなさまには、いつも快く依頼を引き受けてくださり、心から感謝いたしております。が、排菌していない状態のケースが多いとはいえ、「結核」という感染症の現場に向かうことに抵抗はありませんでしたか。

小関さん 自分自身はもともと歯科医ですので、感染症であれ医療現場に向かうことにはまったく抵抗はありません。

アルンさん そもそも家族に病人を抱えていることから、外国人が日本で病気治療に向き合うことの不安については身をもって理解していました。感染症に不安がないわけではないですが、自己管理をきちんとして臨んでいます。

トゥーさん 本音を言えば怖いです。でも、これも試練と腹を括ってからは、気持ちがとても楽になりました(笑)

—今回、2度にわたる東京での研修を受講し、一番の収穫はどんなことでしたか。

小関さん まず、主催団体の「MICかながわ」には、医師をはじめ医療従事者が主体性をもって関わっていることを知り、素晴らしいと思いました。研修では、宮城では学ぶ機会がなかったHIVについて学習できたことが一番の収穫でしたが、それ以上に関東圏の通訳サポーターの方たちと情報交換ができたことは望外の収穫でした。皆さんからは、MIAでは毎月、言語別に医療用語学習会を実施していることをとても羨ましがられ、宮城のチカラを再確認できました。

アルンさん 医療の専門家によるレクチャーはとても貴重なものでした。ロールプレイでは、これまで何度も結核の現場に向かいおわかっていたつもりでいたことにも、新たに気づかされる点があり、本当によかったです。

トゥーさん 感染症についての知識の習得と再確認ができてよかったです。もちろん、メモの取り方など自分なりに築いてきたスタイルとは違う指導もありましたが、そんなことも含めて新鮮でした。

—これから「保健・医療通訳サポーター」に登録しようと考えている方々に、アドバイスをお願いいたします。

小関さん 語学力は言うまでもないのですが、それ以上に患者に寄り添う気持ちが大切だと痛感しています。運用ガイドラインのサポータールールでは、通訳の立ち位置は「中立」であるべきと謳われていますが、医師と患者の間での会話に足りていない部分を察知し補完する、というようなことも通訳者の役割だと思っており、そのためにも日々の学習は大切ですね。

アルンさん ネパールでは、少し前まで結核は「前世の祟り」とも考えられていたほど隠したい病気ですし、排菌していなければ病気という認識も低い。ですから、まずは罹患したことへのショックをいかに取り除いてあげるか、また長期にわたる服薬の大切さをしっかりと伝えてほしいです。

トゥーさん ベトナム人の中には、日本人の医師や保健師になかなか心を開かない人もいることから、ロボットのようにいきなり通訳に入るのではなく、距離感を保ちながらも当たり障りのない話題からアプローチしてあげることが大切だと考えています。

—貴重なお話をありがとうございました。同胞であることの強みを発揮して、これからも「誰もが安心・安全な暮らし」を享受できるようご協力をお願いいたします。

このコーナーでは、県内の国際活動団体の2018年2月～3月の活動予定をご紹介します。

MIAイベントカレンダー

2018	2	S	M	T	W	T	F	S	3	S	M	T	W	T	F	S	
							1	2	3						1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10		4	5	6	7	8	9	10		
	11	12	13	14	15	16	17		11	12	13	14	15	16	17		
	18	19	20	21	22	23	24		18	19	20	21	22	23	24		
	25	26	27	28					25	26	27	28	29	30	31		

※●はイベント開催予定日です。詳しい内容については以下でご確認ください。

アイコンの見方

主催

会場

時間

申し込み

参加費

電話

FAX

Eメール

HP

2月 FEBRUARY

4・9・12・18・25日

瑞巖寺ボランティアガイド

● 松島善意通訳者の会

● 瑞巖寺

● 10:00～15:00

● 不要(直接現地へ)

● 入館料700円は自己負担

● FAX 022-354-3678(大浦)

● k-ohura@kfx.biglobe.ne.jp

● http://www.geocities.jp/matsushim
agw

12日

七夕会 新年企画会

● 七夕会

● 秋保温泉 ばんじ家

● 10:30～16:00

● 桜井ひろ子まで

● 5,000円

● 0220-22-4283

12・19・26日

プレゼンテーションの練習及び質問内容に
2分間で内容をまとめ答える訓練

● 政宗トーストマスターズクラブ

● 仙台国際センター 交流コーナー

● 18:40～19:50

● 不要

● 3回まで無料

● 090-3643-8837

● umemuro@miyagi.email.ne.jp

● https://www.facebook.com/groups/
masamunetmc/

15日

火山とゴリラと赤道ー

一本の鎖でつながれた偶然事象

● アフリカ・セミナーの会

● 仙台国際センター 研修室

● 10:00～12:00

● 不要

● 1,000円

● FAX 022-362-7907

21日

申請取次行政書士による外国人のための
入管手続無料相談会

● 宮城県行政書士会

● 仙台市青葉区役所 4階 市民相談会会場

● 13:00～16:00

● 電話受付または予約なしでもOK

● 無料

● 022-261-6768

● FAX 022-261-0610

24日

国際理解教育シンポジウム

● 宮城県国際理解教育研究会

● 仙台国際センター

● 14:00～16:30

● 要(メール)

● 無料

● 022-256-0215

● FAX 022-298-8523

● miyagikenkokusairikai@gmail.com

3月 MARCH

10日

松島日本語教室まつり

● 松島日本語教室

● 松島町文化観光交流館

● 13:00～16:30

● 不要

● 無料

● 022-355-0155

4・11・18・23・25日

瑞巖寺ボランティアガイド

● 松島善意通訳者の会

● 瑞巖寺

● 10:00～15:00

● 不要(直接現地へ)

● 入館料700円は自己負担

● FAX 022-354-3678(大浦)

● k-ohura@kfx.biglobe.ne.jp

● http://www.geocities.jp/matsushim
agw

12・19日

プレゼンテーションの練習及び質問内容に
2分間で内容をまとめ答える訓練

● 政宗トーストマスターズクラブ

● 仙台国際センター 交流コーナー

● 18:40～19:50

● 不要

● 3回まで無料

● 090-3643-8837

● umemuro@miyagi.email.ne.jp

● https://www.facebook.com/groups/
masamunetmc/

18日

MIA日本語ボランティアセミナー

● 宮城県国際化協会(MIA)

● 仙台市市民活動サポートセンター

● セミナーホール

● 13:00～16:00

● 要(電話・FAX・メール、定員60名)

● 無料

● 022-275-3796

● FAX 022-272-5063

● mail@mia-miyagi.jp

● http://mia-miyagi.jp/

ライブラリー

ライブラリーのコーナーで紹介されている図書は全て貸し出しまたは当協会図書資料室で閲覧可能です。

「どんどんつながる漢字練習帳 中級」

著者:鈴木英子、佐藤紀生、秀 真知子、佐藤佳子 発行:アルク

「漢字は楽しい!」をモットーに漢字指導に励む、MIA日本語講師を中心とした著者たちによるテキスト。2015年に発売された「初級」に続く、待望の中級編です。「初級」と同様に同じパーツを持つ漢字をグループにして提示し、効率よく覚えることを目指していますが、「中級」の新たな工夫は、音のつながりにも着目した点です。例えば、「シ:土、仕、志、誌」のように、音を表す部分が共通する漢字もまとめて覚えられるようになっています。

著者自らが原案を作った、パーツや漢字の意味がイメージしやすいイラストや英語、ベトナム語、中国語、インドネシア語の翻訳が付いているのも「初級」と共通の特徴で、非漢字圏の方でも楽しく「どんどん」漢字学習が進む教材です。



MIA日本語ボランティアセミナー



このセミナーは、地域の日本語教室等での支援のあり方について考えること、また、参加者同士の意見交換・情報交換を通して相互の連携を図ることにより、それぞれの活動をより良いものとしていただくことを目的として開催するものです。ご関心のある方、是非ご参加ください。

- 日時 2018年3月18日(日) 13:00~16:00
- 場所 仙台市市民活動サポートセンター セミナーホール
- 主催 宮城県国際化協会(MIA)
- プログラム

◎講義とワークショップ

「書くこと」の学習支援について考える

講師 鈴木英子さん(MIA日本語講座スーパーバイザー・東北国帰国者支援・交流センター日本語講師)

地域の日本語学習支援では、一般的に「話す・聞く」ことによる日常会話の力をつけることが優先されますが、「書くこと」のサポートは、みなさんはどう取り組んでいますか？

「どんどんつながる漢字練習帳」(アルク)、「使って覚える楽しい漢字」(MIA)の著者である鈴木英子さんと一緒に、参加された方のこれまでのサポートについて振り返りながら、効果的な「書くこと」の支援の手法について考えます。

◎懇談会

お茶とお菓子を囲んで、他の支援者の方々との情報交換、ネットワークづくりをしませんか。

- 参加費 無料
- 定員 定員60名(要申込み)



講師の鈴木英子さん

仙台市立桜丘中学校の「職場体験学習発表会」に行ってきました!

昨年12月15日に、仙台市立桜丘中学校の「職場体験学習発表会」の見学に行ってきました。MIAでは毎年、中学生の「職場体験」に協力していますが、桜丘中学校は今回で6回目の受け入れとなりました。

学習発表会では、2年生が介護施設や幼稚園など職場体験をした事業所ごとに計34のグループに分かれて、担当した作業や学んだことを、プレゼンテーション用のソフトを利用して発表しました。

昨年11月14日から16日までの3日間、MIAに職場体験に訪れた4人のグループは、外国人向けの日本語講座で学ぶ受講生の会話の練習相手を務めたことや、韓国、フィリピンといった外国出身の相談員から話を聞いたことを紹介しました。

その他のグループも、自分達が撮影した写真なども盛り込みながら一生懸命に経験を伝え、見学に来ていた保護者や受け入れ事業所の職員は、「様々なことを学んだことがよく分かった」「今回の経験を活かしてこれからも頑張る」といった心のこもった感想や励ましの言葉を贈りました。

MIAでは、次代を担う青少年のリアリティのある国際感覚を育て一助として、職場体験を受け付けています。時期や人数のご相談については、お気軽に当協会までお問い合わせ下さい。



MIAで職場体験をしたグループの発表



JICA東北からのお知らせ

所在地 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-6-1

仙台第一生命タワービル20階

TEL 022-223-4772 FAX 022-227-3090

E-mail thictpp@jica.go.jp

JICA東北ホームページ <http://www.jica.go.jp/tohoku/>

※JICA=独立行政法人国際協力機構(開発途上国に対する総合的な二国間援助機関で、技術協力・有償資金協力・無償資金協力を行っています)

【訪問学習のご案内】

★国際協力って?

JICAではどんな仕事をしているの?

★青年海外協力隊ってどんなことをするの?

★世界の課題解決のために、

自分たちに今何ができるか考えたい...

JICA東北では、仙台のオフィスに学校の生徒さんを招いて、開発途上国や国際協力についての学習会を随時行っています。

受入れ可能日時: 年末年始、土日祝日を除く平日10:00~17:00

受入れ可能人数: 10名程度(応相談)

申し込み: 1か月前まで

・詳しくはホームページをご覧ください。

<https://www.jica.go.jp/tohoku/enterprise/kaihatsu/houmon/index.html>

お問い合わせ:

JICA東北市民参加協力課

022-223-4772

thictpp@jica.go.jp



訪問学習の様子



TOHOKU UNIVERSITY

東北大学 国際広報センターからのお知らせ

所在地 〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1

東北大学 広報課内

TEL 022-217-4816

E-mail public_relations@grp.tohoku.ac.jp

Web <https://www.tohoku.ac.jp/en/>

東北大学のニュース・イベント情報や、宮城の良さを英語100%で発信中!

Google Lunar XPRIZE

3月31日までとレース期限が迫った月面探査レース「Google Lunar XPRIZE」。東北大学の研究者、ispaceのメンバー、プロボノ(専門家ボランティア)で構成され日本から唯一参戦しているチーム「HAKUTO」は、月面探査ローバー「SORATO」を打ち上げ場所であるインドに向けて送り出しました。レースのミッションは、1.月面に純民間開発ロボット探査機を着陸させること 2.着陸地点から500メートル以上移動すること 3.高解像度の動画や静止画データを地球に送信することです。優勝チームには2000万ドルの賞金が付与されます。



月面探査ローバー「SORATO」を打ち上げ場所であるインドに向けて送り出しました。レースのミッションは、1.月面に純民間開発ロボット探査機を着陸させること 2.着陸地点から500メートル以上移動すること 3.高解像度の動画や静止画データを地球に送信することです。優勝チームには2000万ドルの賞金が付与されます。

TEDx Tohoku University

TEDは、短く力強いプレゼンによって価値あるアイデアを世に広めることを目的とする非営利団体です。TEDxとは、TEDのようなトークやビデオを共有するために、各地で独自に行われているイベントです。

TEDxTohokuUniversityは去年初めて年次会議を青葉山キャンパスで行いました。今年のイベントは4月8日に行われます。



このコーナーでは、MIA宮城県国際化協会の最近の動きをお知らせいたします。
 いずれの件も、お問い合わせは ☎022-275-3796 ✉mail@mia-miyagi.jp まで。お気軽にどうぞ。

「平成29年度 国際理解教育支援事業 派遣講師研修会」を開催しました

MIAでは、多文化共生を目的とした国際理解教育の推進を図るため、外国人講師を県内の小中学校、高校などに派遣し、世界の多様性や相互理解、相互扶助の大切さを理解する機会を提供する「国際理解教育支援事業」を実施しています。その外国人講師を対象とした研修会を12月18日に開催し、22人が参加しました。

研修会では主に、派遣先の学校からのアンケートの結果やよくあるリクエストの紹介などを含む今年度の振り返りとベテラン講師によるデモンストレーション、意見交換会を行いました。デモンストレーションでは、他の参加者が生徒役を務める中、経験豊富な講師3人が学校訪問時に持参する母国の衣装や遊び道具を披露したり、生徒を巻き込む魅力的な進行の仕方を実演したりして、参加者は多くの工夫

を学んだようでした。意見交換会では、参加者同士が生徒への効果的な接し方など、それぞれの経験や情報を分かち合いました。

研修会全体を通じて、講師登録したばかりの参加者が質問するなど、参加者がそれぞれの立場でより良い活動を目指して積極的に臨む姿が見られ、大変充実した内容となりました。

MIAでは外国人講師のご登録を随時、受け付けております。ご興味のある方は、MIAまでお気軽にお問い合わせ下さい。



デモンストレーションの様子

みやぎのふるさとふれあい事業 ～亶理町編～

MIAでは、県内の自治体と協力し、毎年秋に「みやぎのふるさとふれあい事業」を実施しています。この事業は、地域の観光名所の見学やホームステイを通じて、県内在住の外国出身者が宮城への理解を深め、県民と交流する場を提供するもので、毎年、参加者から高い評価を受けています。

今年は、利府町(9/23～24)、石巻市(9/30～10/1)、村田町(10/8)、亶理町(12/2)の計4市町で開催されました。このうち、亶理町は初めての実施となりました。りんご園見学、ホストファミリー宅での昼食、文化体験、町内散策等というプログラムで参加者を募ったところ、定員の10人を上回る申し込みがありました。町民の皆様からご協力をいただき、15人の外国出身者が参加することができました。プログラム終了後、参加者からは、「素晴らしい日本の家

族と会えた。お互いのことを話して、とてもいい時間が過ごせた」、「亶理町のことや、大震災の津波のことを説明してくれて良かった」、「りんご園に行くととてもいい時間を過ごせた」といった声が届きました。本事業は来年度も実施を予定しております。関心のある自治体は、是非ご参加ください。



りんご農園見学。プログラム終了後、お土産のりんごを頂きました！



ホームステイ先での昼食。調理の様子をカメラでパチリ。

MIA法人賛助会員ご紹介コーナー

株式会社七十七銀行(本店・仙台市)



ASIA ビジネス交流会 2017 の開催風景

当行は、1878年12月に「第七十七国立銀行」として設立されました。1961年に経営の基本理念として制定した「行是」では、「自己の利益と公共の利益との調和をはかりながら、地域社会に貢献する」と謳っており、地域社会の持続的な発展のために、社会的責任を果たしていくことを目指しています。海外ビジネスに関しては、アジアを中心とした国際化のニーズの拡がりに対応するため、2011年にアジアビジネス支援室を設置し、現在、法人のお客様の海外進出や海外での販路開拓・拡大に関して、国内外25の提携機関とも連携して支援を行っています。現在、当行の上海駐在員事務所やシンガポール駐在員事務所をはじめ、海外に派遣している行員計13名も、商談会の開催、海外ビジネスに関する手続きのお手伝いなど、現地で様々なサポートに当たっています。また、年に4回発行している海外ビジネス情報誌「Global Letter」には、海外で事業を展開している地元企業のご紹介、最新の海外ビジネス動向の解説など、海外ビジネスに関心があるお客様の参考になる情報を多数掲載しています。



今後は、従来の水産加工業や製造業に加え、サービス業など様々な業種のお客様の海外ビジネスへの参加が見込まれること、地域的にも、中国のほか、タイ、ベトナムをはじめとする東南アジアでのビジネスが増加していることから、それぞれのお客様の状況に合ったサポートで多様なニーズに応え、お客様のビジネスチャンスを拡大共に目指して参ります。海外では、本来の業務のほか、現地職員の労務管理など様々な仕事を少数で行うケースが多いため、今後はお客様が円滑に海外でビジネスを展開できるよう、ご希望や課題にきめ細かく対応する「顔の見えるサポート」にもさらに力を注いでいく予定です。毎年開催しているASIAビジネス交流会では、外国人材の活用や、インターネットを活用した海外向け販路開拓など様々なテーマについて、お客様にご案内をすると共に交流を図っていただいています。

賛助会員募集 当協会はおかげさまで30周年を迎えました。

MIA(公財)宮城県国際化協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人との輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。



- 賛助会員の資格
本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただく個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など
- 賛助会員の区分と年会費
個人会員 / 1口 3,000円
団体会員 / 1口 10,000円
- 賛助会員の特典
◎ 協会機関紙「みやぎの国際情報誌 倶楽部MIA」の定期送付(年6回)
- ◎ 当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加費の減免
- ◎ 個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引(株)JTB東北仙台支店 宮交観光サービス(株)
- ◎ 企業会員については世界各国国旗の無償貸し出し、及び当協会の外国人スタッフ等による国際理解出前講座の無償提供
- 入会方法
◎ 本協会あて御連絡ください。
所定の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



倶楽部 MIA vol.95

編集・発行
 公益財団法人 宮城県国際化協会
 〒981-0914
 仙台市青葉区堤通兩宮町4番17号
 宮城県仙台合同庁舎7階
 TEL 022(275)3796
 FAX 022(272)5063

E-mail mail@mia-miyagi.jp URL http://mia-miyagi.jp/



再生紙を使用しています。